



6万市民の赤色灯

逗子市消防本部 〒249-0005 逗子市桜山2丁目3番31号 TEL 046(871)4326 Fax 046(872)4330
E-mail yobou@city.zushi.kanagawa.jp <http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/syoubou/index2.html>

冬場の救急事故に注意！

紅葉の便りとともに、北国ではもう雪が舞っている季節になりました。今回は寒くなったこの時期に気をつけなくてはならない救急事故について、お話をしたいと思います。

冬場の入浴事故について

冬の季節を迎え、今年も入浴事故についての注意が必要となって来ました。あまり表には出ませんが、入浴中の事故数はかなり多いと言われており、その多くは、冬場の人目の少ない浴室で起こっています。温度差の大きくなる冬場の更衣室で裸になり、熱いお湯に首までつかり、体が十分に温まるまで数を数えるなど、心臓に負担がかかるような入浴様式を幼い頃から実行して来たわけです。清潔好きで湯船での入浴を好む日本における習慣とは切り離せないことですが、入浴中の事故は、気をつければ十分に防げることなのです。



入浴に関するワンポイントアドバイスをまとめましたので、参考にしてください。

- ・ 脱衣所は浴室と同じくらいに暖めておきましょう。
- ・ お湯の温度は、40度以下にしましょう。
- ・ お湯につかる場合は、胸くらいまでとしましょう。
- ・ 早朝の入浴はできるだけ控えましょう。
- ・ お酒を飲んだ入浴は、止めましょう。
- ・ 入浴するときは、家族に声をかける習慣をつけましょう。



救急事故の手前、いわゆる「避けられる事故」をしっかりと予防する意味で、参考にさせて頂けたらと思います。

暖房器具による事故を防ぎましょう

「ストーブのスイッチを入れたまま就寝し、布団が接触した」「ストーブを使用中、上に干していた洗濯物がストーブの上に落下した」「石油ストーブを消さずに給油していたところ、引火した」
ストーブによる事故の一例です。

暖房器具に代表される石油ストーブ。最近では、電気を必要としないことから災害対策用品として注目されているようで、平成7年の阪神淡路大震災で活躍した災害対策用品の一つだそうです。

しかし、一方では燃焼器具であることから、使い方によっては重篤な事故につながるものが少なくありません。

石油、電気、ガスなど、ストーブの中でも色々な物がありますが、正しい使い方を守ればとても温かな暖房器具です。次のことに注意し、安全で温かな冬を過ごしましょう。

- ・ 石油ストーブの火を消さずに給油をするのは、止めましょう。
- ・ 給油タンクのふたは確実に閉め、漏れのないことを確認しましょう。
- ・ ストーブのまわりに洗濯物を干したり、燃えやすい物の近くでストーブを使うのは止めましょう。
- ・ ストーブの近くで、ヘアスプレーなどの引火危険のある物は使わないようにしましょう。
- ・ 外出するときや、寝るときはコンセントを抜くなど、消し忘れに注意しましょう。



～ お 願 い ～

119 番は、火災や救急などの通報専用電話です。緊急性のない問い合わせ等は、下記の電話番号をお願いします。

- | | |
|------------------------|--------------|
| ◆ 火災情報(テレホンサービス) | 046-871-9999 |
| ◆ 休日・夜間の病院情報(テレホンサービス) | 046-872-9999 |
| ◆ その他の問い合わせは、逗子市消防署 | 046-871-0119 |